

**事後評価報告書**  
(日本-ドイツ研究交流)

**1. 研究課題名:** 「大脳基底核の機能と病態の解明」

**2. 研究代表者名:**

日本側: 自然科学研究機構 生理学研究所 教授 南部 篤

相手側: Technische Universität Chemnitz, Fakultät für Informatik, Professor Fred H. Hamker

**3. 総合評価:** B

**4. 事後評価結果**

**(1) 研究成果の評価について**

大脳基底核の機能と病態の解明に関し、実験神経科学(日本側)、計算論的神経科学(ドイツ側)、臨床神経科学(ドイツ側)の相互補完的な取り組みによる交流体制が構築できたことは評価できる。

一方、3者の研究体制が共著となった論文が出されていないこと、および、目標に対して具体的にどのような達成がなされたかの記述が十分でないことは改善を要する点であると思われる。また、当初計画には、複数の皮質-基底核ループによる相互作用に関する実験検証が記述されているが、それがどのように実施され、どのような結果が得られたかについて、十分な記述がないことは残念である。

**(2) 交流活動の評価について**

この事業の相互交流をベースにして、日本の神経科学研究者に、計算論的神経科学と実験的神経科学の両者を理解する機会(国際研究集会)を提供できたこと、また、生理学研究所の教育コースとして、この両者を理解できる大学院生養成プログラムがスタートできたことは評価できる。しかし、日本側からドイツ側への訪問者が研究代表者のみであったことは、プロジェクト全体の交流という観点からはやや残念である。本事業の中で博士研究員をいかに育成し、国際交流がいかに役に立ったのかに関する具体的な記載が望まれる。